

## 伊豆大島

概況(平成 15年 6月)

火山活動は、落ち着いた状態が続きました。

地震活動は、落ち着いた状態が続きました。地殻変動の観測では、火山活動によると見られる顕著な変化はありませんでした。噴煙は、観測されませんでした。

地震活動の状況

地震回数は、1日当たり0～2回で、落ち着いた状態が続きました(表1、図1～2)。

火山性微動は、観測されませんでした。

表1 火山性地震日別回数表(伊豆大島)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	5	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
	0	1	0	0	2	2	1	0	1	0	7	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3	15

短期・日別 地震活動推移(最近2年間の火山性地震の日別回数)

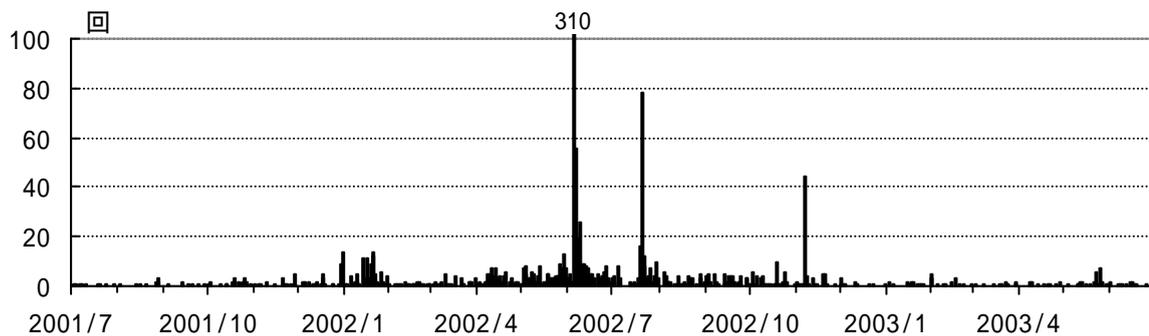


図1 伊豆大島 火山性地震日別回数(2001年7月1日～2003年6月30日)

長期・月別 地震活動推移(1961年1月以降の火山性地震の月別回数)

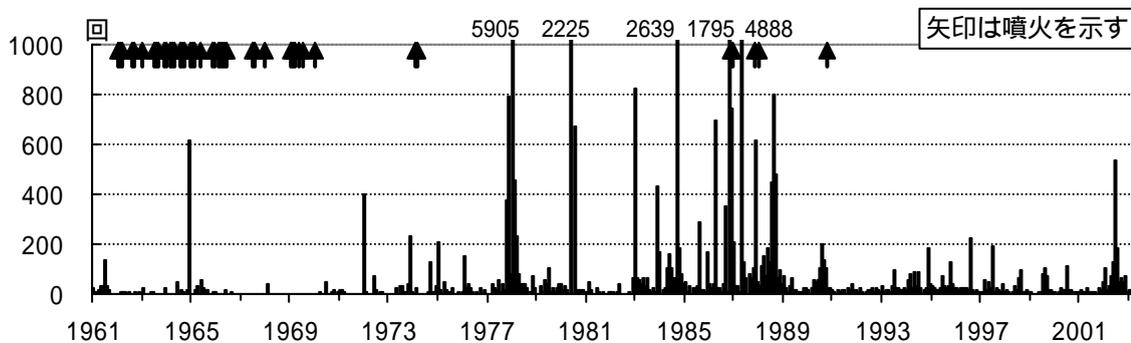


図2 伊豆大島 火山性地震月別回数(1961年1月～2003年6月)

噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、噴煙は観測されませんでした。

地殻変動の状況

今期間(2003年6月)はGPS及び光波距離計に火山活動によると見られる変化はありませんでした(図3- ~)。なお、GPS観測を開始した2001年3月からの長期的な変化を見ると、火口を挟む方向の2つの基線長(大島北西外輪-差木地奥山・差木地奥山-津倍付)が伸びを示しています。光波距離計(南北方向)の観測では、長期的な伸長傾向は2000年以降停滞しています(図4、5)。GPSの大島北西外輪-津倍付基線長(光波距離と同じ南北方向)でも、変化はありませんでした(図3- )。

1996年から行っている、光波距離計による繰り返し観測(連続してではなく、ある程度の間隔を置いて長期的な変化をみる観測)では、山頂カルデラ周辺の地殻変動は、三原山火口が収縮する傾向がみられますが(図6、7)、火山活動の異常を示すような変化は観測されていません。

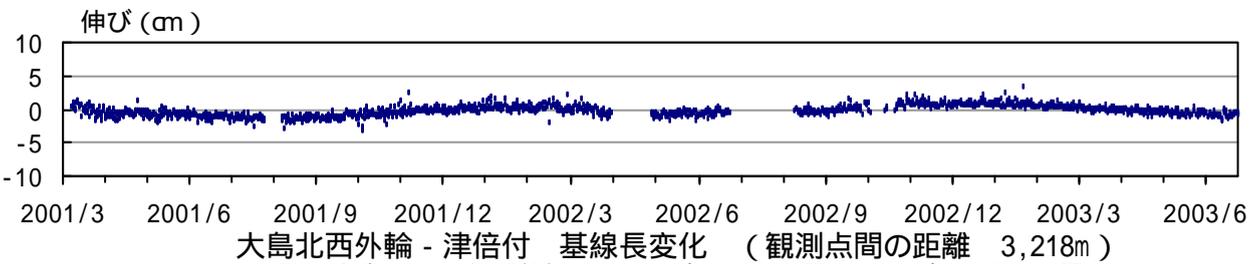
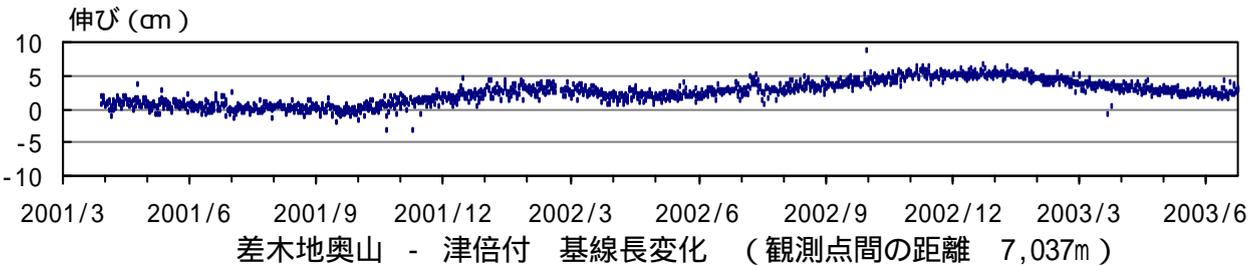
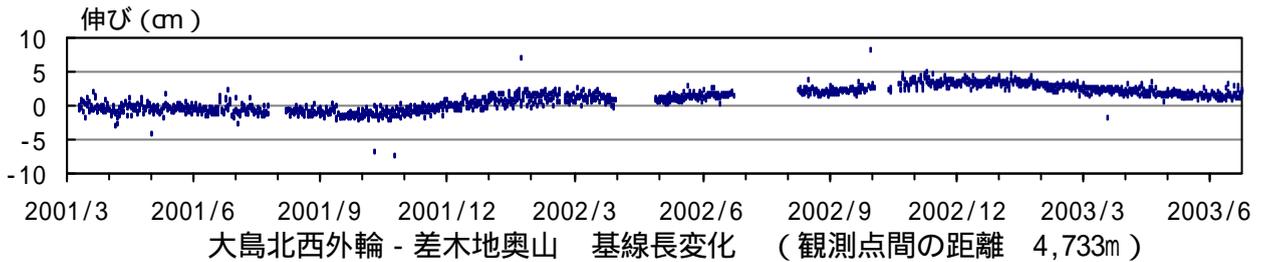
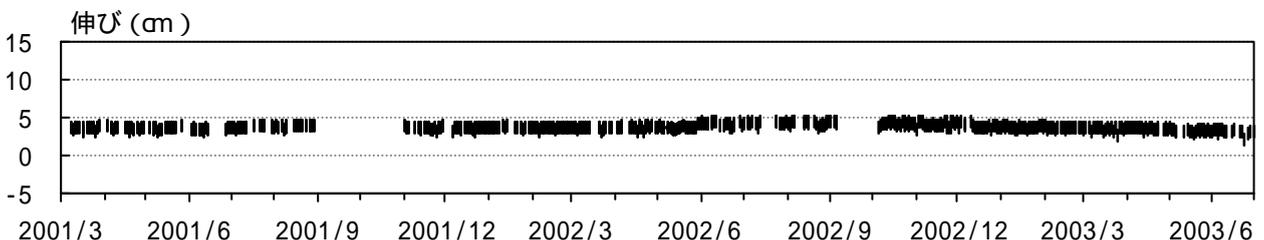
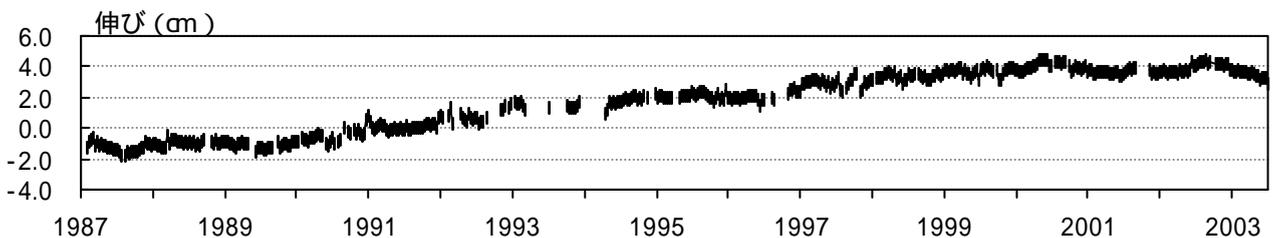


図3 伊豆大島 GPS 観測結果(2001年3月7日~2003年6月30日)



津倍付 - 神達 (観測点間の距離 1,902m)



津倍付 - 神達 (観測点間の距離 1,902m)

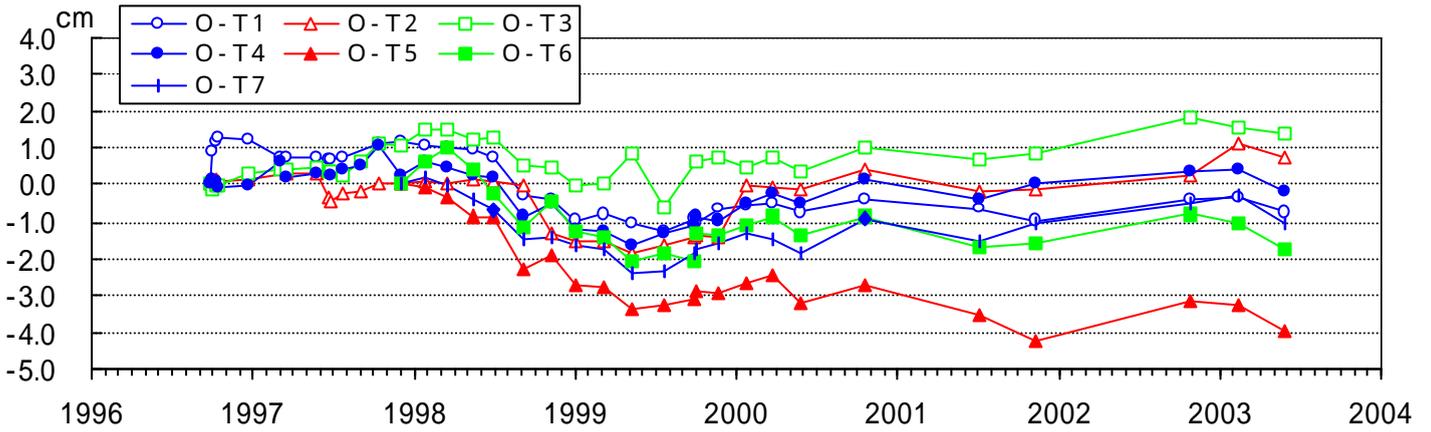


図6 伊豆大島 光波距離計 O点を基準とした斜距離変化  
(1996年9月~2003年6月)

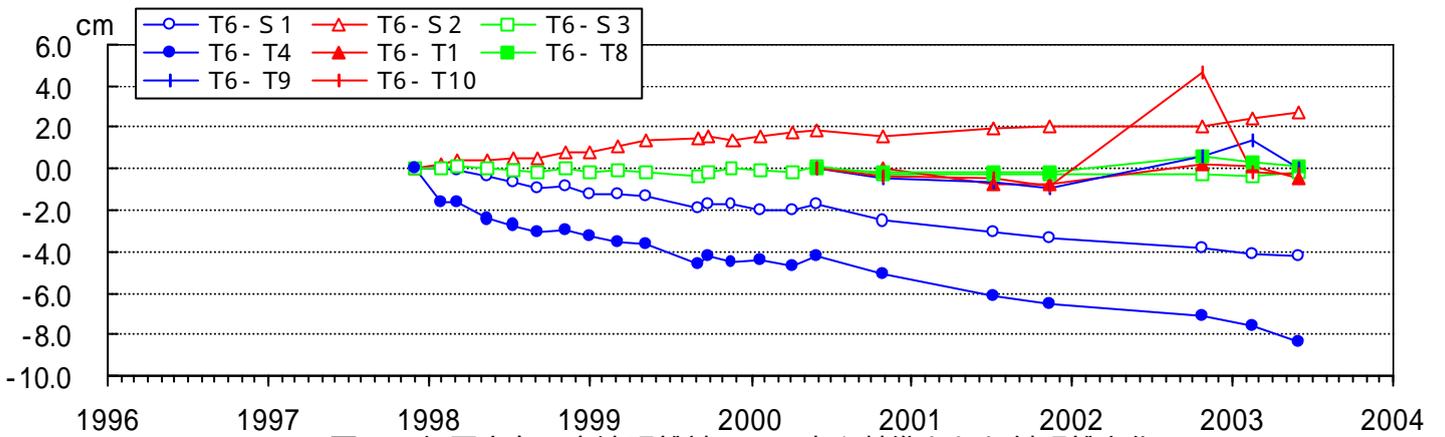
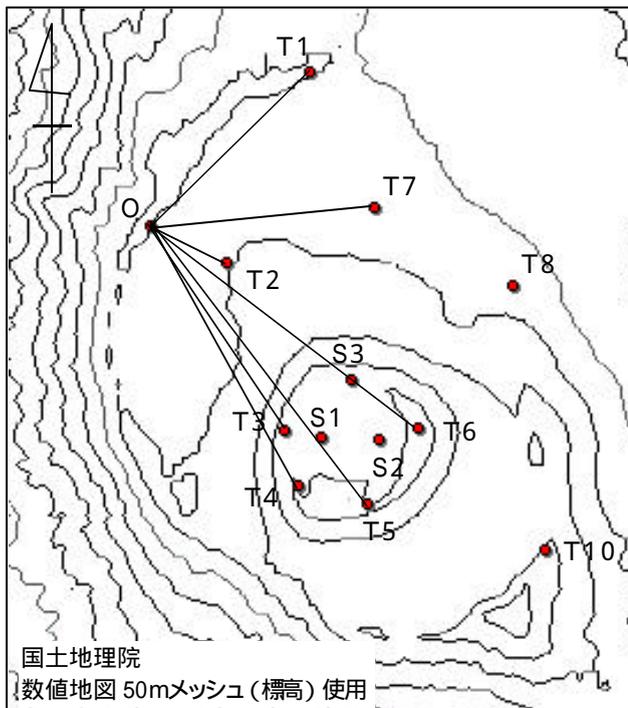
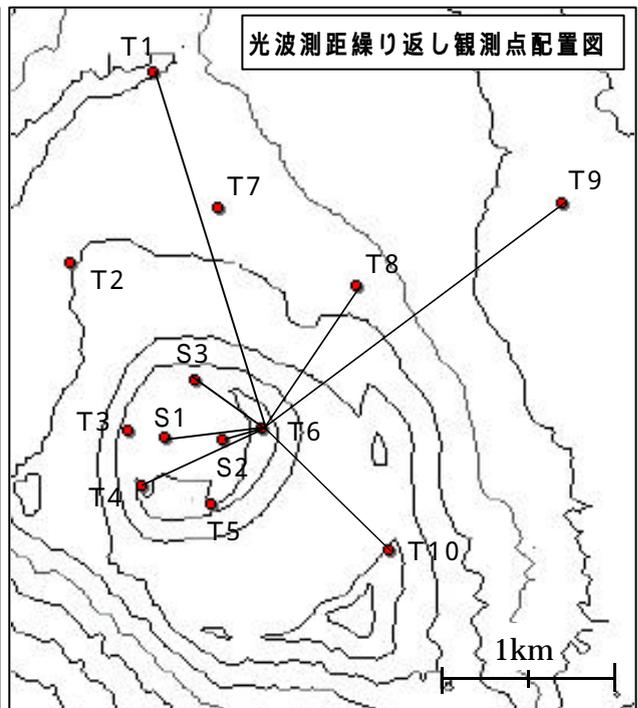


図7 伊豆大島 光波距離計 T6点を基準とした斜距離変化  
(1997年12月~2003年6月)



国土地理院  
数値地図 50mメッシュ(標高)使用

O点を基準とした、観測点間斜距離  
O-T1: 1309m O-T2: 517m O-T3: 1426m  
O-T4: 1723m O-T5: 2075m O-T6: 2019m  
O-T7: 1387m



光波測距繰り返し観測点配置図

T6点を基準とした、観測点間斜距離  
T6-S1: 594m T6-S2: 281m T6-S3: 495m  
T6-T1: 2117m T6-T4: 818m T6-T8: 1012m  
T6-T9: 2258m T6-T10: 1047m

